

- ① 生まれも育ちも東京の私が、今もこうして地域と関わっているのは、**慶應という学閥**のおかげである
 - 学生時代、長野県小布施町で**商品企画・開発という役割と居場所**をいただいた（写真1）
 - **役割と居場所**をつくってもらえたその時のことに恩を感じて、今も地域に関わり続けている
 - 振り返ってみると、何もかも未経験の私が、地域に辛抱強く向き合ってもらえたのは、**慶應という学閥**のおかげ

- ② **自分の力じゃ立ち切れない若者**が中長期的に地域と関わるには、**ブランド**が欠かせない
 - 自分の力では立ち切れない若者に、地域が役割を任せる = 「**プロの劣化版**」として使い倒されるということになりがち
→ 若者にとって望ましい関わり方ではない
 - そこから守るには**学閥**に限らず、**大企業**や**地域おこし協力隊**といった、地域に対して**看板になるネットワーク**が若者には必要

- ③ **役割**や**居場所**と同時に「若者を守る**看板になるネットワーク**をいかにつくるか」にも着目した政策をお願いしたい
 - **役割と居場所**をつくるだけでは、若者は**短期で地域に使い倒されて、地域との関わりを終えてしまう**ことになりかねない
 - 故に、地域での若者活躍の入口づくりには、**役割・居場所・看板になるネットワーク**の3点セットが重要

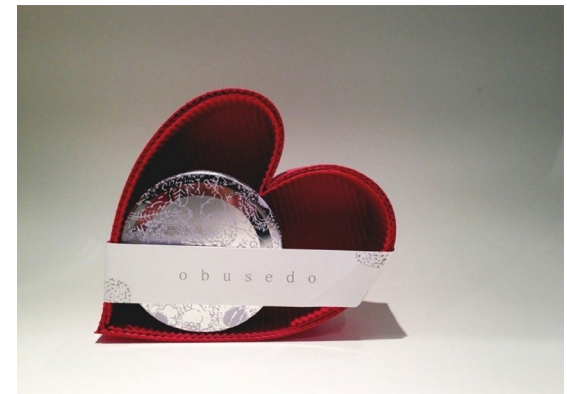


写真1：学生時代に小布施町でつくった栗菓子